

独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院

令和5年度 第1回地域連絡協議会議事録

【日時】令和5年6月7日（水）18：00－19：00

【場所】佐賀中部病院附属老人保健施設1階会議室

【出席者】吉原正博（佐賀市医師会長） 枝國源一郎（佐賀市医師会理事） 浅見豊子（佐賀大学リハビリテーション科診療教授） 坂本龍彦（佐賀中部保健福祉事務所保健監） 蘭英男（佐賀市保健福祉部部長） 杉田博治（地域住民代表） 園畑素樹（院長） 岡洋右（副院長） 内田賢（副院長） 辻信介（健康管理センター長） 國重顕（事務長） 時里玉栄（看護部長）

以下当院会議支援参加者

冨山ルミ（副看護部長） 高塚英二（事務長補佐） 一尾忍（事務長補佐） 山下将司（副看護師長） 岩永由紀子（看護師） 服部真和（MSW） 杉野遥香（事務員）

【概要】

1. 令和4年度病院経営状況報告について 國重顕事務長より

佐賀中部病院運営状況報告資料を参照  
質疑応答)

枝國理事：救急搬送受入に関して、中部病院に依頼があった際「診療科が違うので」という理由でキャンセルされるケースが多い。

園畑院長：当院は元々オンコール体制があり、各医師にオンコールを積極的に使うよう指導をしている。去年あたりから、各科協力し診療にあたるようにも指導しているため、夜間や休日の救急車受け入れ率は上がってきている。

枝國理事：佐賀市内の先生方から、中部病院に紹介の電話をしても患者を取ってくれないと言って、今では紹介の電話もしない先生も居る。せっかく診療科や先生方も多くいらっしゃるのでは、受け入れの体制を整えていただくと、地域の先生方も助かると思う。

吉原会長：訪問看護ステーションが開設されたが、スタッフ数は何人居るのか。

時里看護部長：令和5年2月より運用を開始し、スタッフ数は常勤換算の最低人数2.5人を踏まえた3人で行っている。現在は日中のみの運用ではあるが、利用者の状況を見ながら24時間対応できるように検討する。

吉原会長：前院長は訪問診療についても話をされていたことがあったが、今後訪問診療を行う予定はあるか。

園畑院長：医師のマンパワー上実現は難しい。

2. 病院の現状と今後の取り組みについて 園畑素樹院長より

佐賀中部病院の現状と今後の取り組み資料を参照

質疑応答)

吉原会長：地域医療連携推進法人の中部医療圏についての話だが、大学はどのような関わりをしているか。

園畑院長：大学は別格扱いになっている。

吉原会長：大学は医局員数も多く、完全に分けてしまうとおかしい。7～8年後を考えてやっていかなければいけない。

枝國理事：小児救急や産科など特化したものを、バラバラではなく一カ所に集めようという考えで動いている。民間の病院は地域医療構想のときもそうだったが、いち早く動いている。公的病院は逆に動きにくい現状はある。

園畑院長：問題なのは、法人化しなくても中部病院の役割を指示されれば従うが、その結果売り上げが減って職員の給料が減ってしまうことは避けたい。どのような役割があっても、職員の給料が減ってしまう状況になれば抜けることを明言している。

枝國理事：中部病院のような規模の病院は、市のことや県のこと全体を俯瞰で見てほしい、民間もマイナスになることはよくやっている。医療従事者や県全体を俯瞰し、10年後の医療体制をちゃんと作りましょうといったことを目指して、引くところは引いて協力し合う必要がある。できなければ、中部病院だけではなく、県内の医療が崩壊していると思う。

園畑院長：中部病院がどこにも協力せず単独でしようと思っていない。市や県が、当院と合併を望むとしたら拒む理由はない。JCHOの規定でも、地方自治体に献上することはOKとなっている。しかし、結果として業務分担して職員の給料が減ってしまう施設とそうでない施設があるため、減る可能性がある当院がそうならないように患者数を確保できるようにしてもらるか、保証されるように合併してもらうしかない。当院も佐賀のために今後ダウンサイジングしていくか、病床の比率を変えていくか考えなければならないと思う。

枝國理事：共倒れしようという話ではなく、お互いが伸びていくために連携していければいいと思う。

園畑院長：地域医療構想において佐賀全体をみても、病床数をかなりダウンサイジングしなければならない。実際、慢性期などを含めると、実数はそこまで減らす必要はないが、割合をシフトしていかなければならない。当院も救急に関して、まだ改善途中ではあるが、救急車に対応する病院もある程度絞っていかなければ、どこも共倒れ状態になってしまう。まだ、本格的に突き詰めた話を今回行えたわけではないので、これから会を重ねていく中で行っていききたい。